

1 自己評価結果

(ユニット名 もくれん)

事業所番号	0671300259		
法人名	社会福祉法人 みゆき福祉会		
事業所名	グループホームみずほ		
所在地	上山市牧野字妻神1615		
自己評価作成日	令和3年 10月 15日	開設年月日	平成 15年 4月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな地域の中で、地域住民と関わりながら、利用者の立場に立った尊厳ある生活が出来るよう支援している。コロナ禍の中、感染対策を図りながら利用者が安心して地域の中で暮らしていけるよう支援している。出来るだけ身体筋力を衰えないようにするため、毎日、笑いや楽しみを加えた軽体操や施設外周の散歩など行っている。また、趣味や活動、生活動作が継続できるよう、一人ひとりに沿ったプランを立て実施している。専門知識の向上、馴染みの関係性と安心ある接遇、居心地の良い環境づくりを目指し取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 11月 10日	評価結果決定日	令和 3年 12月 2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の人々から様々な交流を通して支えられ、利用者は地域の一員として行事に参加する事を楽しみにしていましたが、外部との交流ができない今、利用者喜んでもらう企画に取り組み、ご当地フェアの日には美味しいものを食べ、また季節に応じた節日の行事に取り組むなど、ユニットごとに企画して楽しんでいます。職員は尊厳を持って利用者へ接し、認知症についての事例研究にも取り組み、趣味や家事活動をしてもらい、その人の出来る事を伸ばし、生きがいを持った暮らしを提供しています。コロナの終息状況を見ながら、利用者との関わりを一人ひとりの能力に応じた暖かい介護を続けていきたいと、歩みを進める事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念を職員が周知し共有するとともに、施設内や勤務表にも掲げている。年間計画や行事を企画する際は地域との交流も検討しながら計画を立てているが、感染症対策を十分留意している。尊厳を大切に、本人に寄り添い信頼できるケア・接遇を心掛けている。	ホーム理念の「人としての尊厳を大切に」をキーワードに毎月の会議で振り返りをしている。利用者の心身の状態によって関わり方を学び、その人の出来る事を伸ばすケアを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域交流は中止となっている制限あり中止となり今まで継続して行ってきた活動(笹巻作りなど)は思い出しながら少人数での実施。近くへ散歩をし出会った方との挨拶を交わしたり、地域の中で暮らしているという認識を味わった。余暇活動で雑巾を100枚達成し、地域学校へ寄贈予定である。	例年であれば地域の方々との交流が数多く行われていたが、コロナ禍により中止せざるを得ない状況になっている。事業所内では、利用者職員が交流を思い出し出来る範囲での活動をしている。地域の一員として雑巾縫いをし、目標の100枚になり近くの学校に届ける予定になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響もあり地域支援活動委員会の自粛制限を行い、昨年度より活動は減った。事業所内では、地域の公民館で出前講座(ミュージックケア)を行った。グループホームだよりは、昨年度は1月末に発行し、今年度も実施予定。地域に日常の様子などお知らせする。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	例年は定期的(2ヶ月に1回)に会議を開催し地区会長、民生委員、市職員、家族、利用者も参加し開催しているが、昨年度よりコロナの影響もあり書面での報告となっており、今年度も同様書面での報告となっている。委員より意見をもらい事業の運営につなげている。	運営推進会議はデイサービス事業所と一緒に地区役員・行政・利用者・家族等の出席を得て開催しているが、コロナ禍により書面報告となっている。意見等は管理者が電話で聞き、家族からは感謝の言葉が寄せられている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政より定期的に案内やアンケート調査がある。必要時は、連絡を取り担当者と相談し協力体制を築いている。昨年末には、コロナワクチン接種に関して、行政との情報提供に参加し情報収集を行った。	市の担当者からは運営推進会議のメンバーとして参加してもらい、実状の理解を得ており解らない点等は照会している。特に今年はコロナワクチンについての情報提供や面会についてのアンケート調査があり、協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>感染症対策の為、今年度研修は視聴研修が主。法人での研修に参加し委員会活動でも身体拘束をしないケアの検討をしている。リスクの高い利用者へは、随時家族への説明を十分に行い情報提供している。利用者の安全を図りながらセンサーの設置を行ってリスクを予想した対応を行っている。外へ行きたい利用者がいればなるべく一緒に外に出るよう対応している。現在身体拘束は行っていない。</p>	<p>法人で身体拘束委員会を設けており、コロナ禍のためDVDによる視聴研修を受けている。ヒヤリハットの内容を共有し、事故にならないようセンサーの利用もある。毎週会議の時にスピーチロック(言葉の抑制)などについて話し合い、身体拘束のないケアを実践している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎年法人で高齢者虐待防止等についての職員研修がある。(今年度は、感染症予防対策の為、施設内研修は視聴式であり全員参加できている) ホームでは、スピーチロックについて自分自身や他職員の言葉についてもお互い注意できるよう心掛けている。接遇の研修も行っており、虐待防止に努めている。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>毎年法人で研修があり参加している。(日常生活自立支援事業や成年後見制度は利用者個々について、法人の相談員と連携しながら進めている。</p>	/	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は事前に十分な時間をとり説明を行い都度不明な点やわからない点は確認している。後日においても説明し納得の上契約いただいている。退居の際も十分な話し合いの場を持ち、納得の上で退居されている。</p>	/	
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会や連絡を取る際は、必ず利用者の状態を話し家族の意向も聞いている。苦情を受け付ける意見箱の設置をしており、苦情解決委員会で検討の仕組みがある。意見が出た場合は、早急に職員間へ情報の共有を図り、迅速に対応して取り組んでいる。</p>	<p>家族等の協力が必要な事から意識して話し易い環境作りを行い、苦情があった場合は苦情解決委員会で検討し、出来るだけ早く結論を出すようにしている。コロナで面会が出来なくなり電話で様子を知らせ、意見をもらい職員で共有し要望にも答えている。</p>	
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンスや全体会議で意見や提案を出し合い実践に結び付けている。職員とは年に2回面談の機会がある。年1回職員の意向調査と必要時施設長との個別面談も行っている。</p>	/	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、職場環境や条件の整備については、法人として全体で継続的に検討している。安全衛生委員会で職場環境やメンタル面のサポートも厚くなっている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の職員研修の機会は多く、利用者に対してきちんと向き合える知識と良識を持った職員が育つような様々な学びの場を作っている。実践者研修等には支援もありまた、資格取得者も多い。	法人で人材育成に力を入れており、毎月一回リモート(DVD)研修を全職員が受け、外部リモート研修にも出来るだけ参加するようにしている。必要に応じて法人の巡回指導者の話を聞きスキルアップに繋げまた、職員皆でカバーしあい、利用者に向き合える職員育成をしている。資格取得を助成する制度もあり、支援を受けた職員も多く励みにもなっている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県村山ブロックのGH連絡会に所属し、例年、各種会議への参加・交換研修・新人・中堅研修に参加し、他施設職員との交流も深め職員のスキルアップにつながるよう取り組んでいる。昨年に引き続きコロナ禍の為、会議においてはリモートで行い学んでいる。	山形県グループホーム連絡協議会に加入しており各種会議や研修会に参加、職員も気付きを得ている。コロナ禍によりリモートでの情報交換になっているが、状況改善後には交流の再開を見据えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際は居宅からの紹介や情報の他、家族や本人の情報をもとに職員全員で共有し、本人・家族の安心を確保する為の関係づくりに努めている。環境の変化による心身の状態の変化に配慮しながら関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	感染症予防対策の為、施設内見学が制限中。出来るだけ情報が伝わるよう細やかに話し合い、家族・本人の意向を聞き心掛けている。できるだけ情報が伝わるよう細やかに話し合い、家族・本人の意向を確認。入居してからも面会の他、おたよりや電話連絡を行い詳しく伝え情報の共有を図っている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	定期的に法人の生活相談員や居宅事業所のケアマネージャーなど関係職種と連携をとりながら、その時々に応じた対応に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話での気づきや、アセスメントシートを活用し、本人のできる力を大切に、一人一人に合わせた活動や趣味など出来そうなところと一緒に、行う事で関係作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会が限られている分、可能時は生活の様子を詳しく伝えお便りには写真を入れて送付している。家族と本人の関係を大切に、本人を共に支えていく関係を築いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症予防対策の為対応が難しいところもあるが、職員は、日常の関りの中から思いを引き出せる様会話力を身に付け努力している。昔からの馴染みを忘れないよう、電話や面会(窓越し、ウェブ、直接面会など)時は情報をお伝えし、積極的に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係作りに配慮している。家事や余暇活動の際は、個々の人間関係に配慮して活動を楽しめるように工夫している。コミュニケーションがうまくできない利用者に対しては、職員が間に入りは橋渡しを行い孤立しないよう関わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が長期入院などで終了される方へ、居宅や病院と相談しながら本人・家族への次への支援に努めている。併設施設(特養)などへ移られた方についても、面会に出向いたり退所後も面会にも出向き関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から本人に生活・食などの楽しみや要望など話す機会を持ち、本人の意向が叶うよう心がけている。カンファレンス時には、センター方式を活用し、本人の気持ちを大切にケアプランに繋げている。言葉に出来ない方には耳元でゆっくり話しながら表情を確認し意に沿った暮らし方を提供している。	日々の関わりの中で利用者の表情や態度から状況判断が出来るよう、職員は観察力を養い言葉を聞く様になっている。訴えの困難な方には沢山話しかけ、利用者が伝えたい事を表情で読み取り笑顔を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を中心に、本人との会話や家族に協力を得ながら情報を得ている。入居時には家族などに生活歴を記入してもらい活用している。新規者には、新しい情報はノートや申し送りなど活用し職員間で共有しサービスの提供に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方については1日の流れ(24時間シート)を作成、心身の状態、有する力等は心身のアセスメントシートにより把握し共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が主となり、家族の意向を聞きながら情報収集し原案を作り、ケアカンファレンス等でアイデアを出し合いケアプランに繋げている。コロナ禍により家族を呼んでカンファレンスを行うことができなかったが、意向を確認し、また、都度聞き取りを行いながら計画を作成している。	介護計画は、担当職員が出来る事出来ない事を見極め、家族等の希望と全職員の意見を入れて作っている。職員からの情報でやりたい事ややってみいたい事も入れて、今出来る事を長く維持出来るよう、本人本意のプランになるよう気持ちを込めて作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護看護経過記録・生活記録・申し送り表などで日々の様子を把握している。ケアプランの実践状況や気づき、本人の言葉の記入があるため、ケアプランを見直す際に活かされている。第3者が呼んでも理解できる言葉で表現し記録している。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、地域支援団体みずほの会を通して防災訓練など地域の協力を得ながら行っているが、今年度は感染症予防対策の為実施していない。しかし、夏の大雨の災害時は、地域福祉関係との協力を得、他施設避難活動への参加も行った。また、交流活動では、今後の課題を踏まえ検討が必要と思われる。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、在宅の医療機関の受診を継続している。通院の相談や報告などの連携もしている。また、協力病院の往診も受けている。コロナ禍により、職員の対応となっている。その際は、都度、家族への情報提供を行っている。	入居前からのかかりつけ医の外来受診や往診、また協力医の往診など希望に合わせた受診支援を行い結果は家族や職員で共有している。看護師と連携を密にして日常的な健康相談やアドバイスもあり細やかな医療体制を築いている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取り、看護師に状態の報告・連絡・相談を行っている。日々の利用者の健康観察を行い、適切な指示が受けられている。緊急時も看護師の判断を仰ぎ受診に繋ぎ記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先の病院や協力病院の医療福祉相談員とその都度情報交換を行い、連携を図り早期退院に努めている。退院に関しても主治医と相談し長期入院でレベル低下のないように心がけている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りについて情報収集を行い、ホームの会議においても学習会を開き、職員の理解を深めている。予想される状態については、主治医と相談し、必要となる対応を整えている。看取りケアについては、2週間ごとカンファレンスを開催し、経過や対応など職員間で情報を共有している。(去年は2件)</p>	<p>契約時に「みずほの里看取り介護に関する指針」を家族等に説明し、更に毎年の家族アンケートで意向の確認を行っている。重度化した場合は医師から家族等に説明の上今後の選択肢を示し再確認をしている。看取り期には利用者が温かい気持ちで過ごせるよう、職員は頻繁に訪室・声掛けをして家族と一緒に過ごしてもらい穏やかな最期を迎えられるよう最善を尽くしている。</p>	
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全職員が年に1度応急手当や初期対応・AEDの使い方など、場所の確認・使い方を見直し、実践力を高めている。緊急時は、マニュアル通り実践できるよう準備している。</p>		
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回消防署や地域の方の協力を得て、夜間も含めて防災訓練を行っているが、感染症対策の為去年は地域の方は参加されていない。実際に職員と利用者の動きを確認し消防より評価。利用者の安心・安全を守るよう施設内訓練の実施(年2回)と書面での確認を定期的に行っている。</p>	<p>併設のデイサービスセンターと合同で総合訓練を実施し役割分担を明確にして、消防署の講評や反省点は防火管理委員会で検証し次回に活かしている。日ごろから招集訓練や避難経路の確保、気象情報や車の燃料などの確認を怠らず万が一に備えている。</p>	<p>避難後の生活を考慮し、非常持ち出しに飲薬や既往症、連絡先などの利用者情報を加えることの検討に期待したい。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>ホーム理念の「尊厳を大切にしながらともに支え合う」を大切に、声掛けにも声の大きさ、トーンにも配慮しながら行っている。自分達と同じよう当たり前の生活が継続できるよう、接遇にも力を入れて対応している。</p>	<p>朝礼で接遇マナーの読み合わせを行い、常に目上の先輩として利用者を敬い笑顔で接している。食事の準備や後片付け・畑仕事・ミシンを踏んでの針仕事など経験を活かした見事な仕事ぶりに職員の惜しみない賞賛や感謝があり誇らしげな表情を見せている。</p>	
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の言葉や行動、表情には常に注意を払い、職員間で情報を共有できるようにしている。本人が答えやすいよう話せる雰囲気を中心掛けている。また自己決定を尊重し無理強いしないように心がけている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、希望に添えるよう意見を聞きながら支援している。意思表示が困難な場合は、体調・表情・雰囲気などを見ながら個々に合わせ支援している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容に気を配り、清潔で季節に合った衣類で過ごせるよう支援している。その際は、一緒に選ぶことへも意識し行ってる。化粧の習慣がある方は継続し行えるよう支援している。家族と相談しながら白髪染めも行なっている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り(食材切りや盛り付けなど)を出来る事を一緒に行い関りを持っている。一人ひとりに合った食形態に配慮し、ゆったりと食事出来るように心がけている。食器拭き等の片づけは職員と会話を楽しみながら出来ている。献立作りも利用者の聞き取りを行ったり希望に合わせて行なっている。	朝夕は利用者の希望を反映させた献立で、昼食のおかずは配食サービスを利用している。季節行事や記念日に合わせて出前を取ったりご当地フェアと称して他県の雰囲気を演出した名物が登場して、時には酒やビールも提供し満面の笑顔が見られている。また半年毎に全利用者の栄養スクリーニング(栄養状態の評価)を行い一人ひとりが最適な栄養摂取できるよう取り組んでいる。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、排泄についてチェックを表用い職員で把握し自立支援につなげている。ムセリのある方にはトロミ剤を使用し個々に応じて対応している。献立は業者の献立表を参考にし、食材の偏りが無いよう栄養バランスがとれ食べやすい食事になるよう心掛けている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士を配置し口腔ケアの指導を受け一日3回の歯磨き習慣を行っている。一人で出来る、声掛けで出来ている、一緒に行う、全介助等段階に応じ支援している。毎食一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに行きたいというサインを見逃さず誘う事や、定時に誘導するよう支援している。自力でトイレに行ける利用者にはさりげなく状況を聞いている。誘導の際は、出来るだけ小声で伝えプライバシーに配慮している。個々の排泄パターンをつかみ、それぞれに合わせたパットを使用し支援を行っている。	一人ひとりのリズムに合わせて間隔やしぐさを見て誘導している。終了後鈴を鳴らして知らせてくれる方もおり、確認し排泄板(排泄記録)に記入して状況を把握している。声掛けは周りに聞こえないように行い、繊細な心情に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、水分摂取量と軽運動を行い便秘予防に努めている。また、毎朝のヨーグルト、ヤクルトの提供、食物繊維の多い寒天ゼリーを摂取している。個々の排泄パターンに合わせ支援している。水分、食事、運動を積極的に行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日やメンバーの設定は行わず、一人ひとりの生活ペースと状態にあわせ、見守り・声がけし、気持ちよく、また、清潔が保てるよう入浴を支援している。拒んでしまう方には、無理強いせず、誘導の方法や声掛けのタイミング、職員を代えたりと工夫している。	一般浴とリフト浴を備え、必要に応じ併設する特別養護老人ホームに設置されている特殊浴槽利用もでき、身体状況に合わせた安全な入浴を提供している。拒否する方には在宅時の習慣に倣い夕食後にするなど、皆が気持ち良く入ってもらえるよう工夫している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣をふまえ、家事など本人の体調様子を見ながら支援している。コロナ禍の中外出支援が難しくなったが、午前中は軽運動、午後は個別で出来るものを心がけ、夜間安眠に繋がれるよう心掛けている。居室内の温度や照明など、心地よく眠れる様配慮している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の一覧表によりスタッフが薬について理解できるようにしている。薬係を中心に薬の管理を行っており、受診の際は看護師と連携しながら医師に状態を上申している。変更がある場合は申し送りを徹底している。誤薬防止の取り組みも行いマニュアルを作っている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力を生かした家事に参加の場合は、気持ちよく行っていただけるようその都度感謝の言葉を伝えている。ケアプランに個々の役割や楽しみを盛り込み実施している。カンファレンスを活用しながら今をより良く生活できるように取り組んでいる。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防対策の為、積極的な外出はできなくなったが、感染マニュアルに沿い対策をとり実施。その際は、少人数で密集を避け、消毒や換気、マスクの着用など感染予防対策を取りながら行き気分転換を図っている。	外出の重要性を理解しながらも感染対策で控えざるを得なくなり、少人数のドライブで車窓から黄金色の稲田や紅葉を眺め五感の刺激や開放感を味わい「楽しかった」の声が聞かれている。また庭に出てお茶会をしたり、近隣の散歩や畑仕事などで日ごろから外気に触れ、気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個別に対応している。個人の雑貨などの購入に使っているが、本人が支払うのは困難のため職員が代行し、本人に伝えている。</p>		
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>コロナ禍の中、面会の制限がある為、電話や手紙など利用している。行事(母の日や誕生日など)を活用し手紙のやり取りを行う機会を作っている。</p>		
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>感染症予防対策の為、席の配置にも検討し、密集・密接・机の向きなど予防対策を行った。ダイニングや廊下には、季節感のあるものを飾り、共用の空間は、利用者同士のコミュニケーションがとれるよう席の配置を工夫している。また、お互いのプライバシーに配慮し、居心地の良い場所になるよう配慮している。</p>	<p>感染対策のためソーシャルディスタンスを取った食席や余暇活動で、以前のように大規模な行事もできなくなり生活が変化しているが、リビングで小規模の行事や余暇活動を演出して楽しんでいる。ミニ夏祭りや小さな花火大会、また職員がママに扮し「バー楽園」を開店して酒やビールで盛り上がるなど、許容範囲内で精一杯楽しむ利用者の姿が見られている。</p>	
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>感染予防対策をとり席の配置を行っている。食事の席と寛ぐスペースを分け、自由に動けるスペースを設けている。廊下にも椅子を置き、過ごせる空間を作っている。</p>		
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に本人・家族と相談しながら居室作りをしている。また使い慣れた家具を持ち込み、自宅に近いように配置している。共有・居室の過ごし方を使い分け、お互い(利用者間)のストレスをためないようリラックスできる環境を整えている。リスクにも配慮し、転倒しないよう歩く動線に配慮している。</p>	<p>押し入れやタンスを備え付け必要なものは自由に持ち込んでもらい、使い慣れたミシンなど道具の持ち込みを提案することもあり、趣味の継続に繋げている。入り口には絵や職員手作りの表札がかけられ、一人になりたい時も迷うことなく居室に戻り、思い思いに過ごしている。</p>	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々に、今出来る事が継続し行えるよう、衣類の出し入れはタンスに名称を貼ったり、安全に移動できるよう環境整備を行っている。トイレや廊下、浴室には手すりがあり、つかまれば出来る事(立ち上がりや立位の保持等)の支援につながっている。</p>		